

第1講 開講式、オリエンテーション

講師及び担当：名和田学長、山路講師、藤村、田中（ナビゲーター）、森（サブナビゲーター）

日時：令和4年7月9日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）
参加者：8期生、学長、講師、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、サブナビゲーター、事務局 合計：24人（Zoom 配信あり）

●学習目標

1. スクールの開講の主旨を理解する。
2. 全6講の講座の流れと内容を理解する。
3. 横浜市における市民活動の事例を知る。
4. 自己紹介を通じて仲間との交流を深める。



名和田学長 基調講演

●内容

1. 開講の基調講演「地域活動・市民活動への誘い」
～横浜の豊かな市民社会にあなたも参画しよう～
 - ◇自治会、地区別計画等の活動の基礎的な知識の習得
 - ◇行政との協働による具体的な市民活動の事例説明
2. 運営スタッフ紹介
 - ◇パワーポイントを用いて一括で紹介（全17名）
3. 受講生の自己紹介
 - ◇アイスブレイク：全員で「幸せなら手をたたこう」進行は野場、森。
 - ◇8期生一人3分で自己紹介：3分スピーチの体験学習。
4. オリエンテーション
 - ◇全6講の全体の流れと、目的や学び方、「夢プラン」作成の手順について説明。
 - ◇地域づくりの着眼点と基本的な考え方。特に「居場所づくり」「出番」を訴求。



山路講師によるオリエンテーション



アイスブレイクでなごむ会場



8期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」、「不安に思っている事」また、質問などをご記入ください。

- 講師の「屋外、気楽、身近」はとても参考になりました。
- 自分がやりたい事をまとめ、情報を得たりしたいと思っています。
- この講座を通してたくさん（地域に）関わっていきたいと思います。
- 参加者の地域も興味もいろいろの仲間に会えて嬉しい。今後はじっくり考えたい。経験がいかせれば嬉しい。
- 自分の興味が「空家、空地、景観、緑化」にあるような気がしました。
- 夢プラン作成には不安がありますが8期生の皆様のお話を聞きながら具体化したい。
- 居場所づくりに興味をもった。
- つながり大切に気楽にやっていけそうに思いました。

コメント欄（担当ナビゲーター：藤村・田中）

- 開講式のアンケートの集計から満足度は昨年よりも向上し、高い評価となった。
- 昨年度は女性の参加比率が約3割と少なかったが、今回は倍増したのが特徴的。
- 受講生の年代や参加の地区が広範囲になっている。
- 既に活動している人や活動経験のある人が多い。
- 今年度の受講生もコロナ禍を踏まえ9名ではあるが、20代から80代までの多世代が集まった。それぞれの世代が描く「夢プラン」を応援していきたい。
- コロナ禍の3年目の開講となり、Zoomのノウハウが生かされた円滑な運営になっていた。
- 修了生等の紹介で申し込んだ人が増えてきた。（地道に7年間継続してきた成果）
- 「つながり図」の前での対話が盛り上がったので、スクール開講時には掲示した方が良いと思う。



令和4年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第2講 市民（地域）活動の達人ナビゲーターを知ろう・地域資源を知ろう

講師及び担当：区社協渡部、金子、神田（ナビゲーター）、森、野場（サブナビゲーター）

日時：令和4年7月30日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）
参加者：8期生、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、サブナビゲーター、事務局
合計：23人（Zoom8期生3名参加）

●学習目標

1. 5人のナビゲーターが地域で活動することになった背景と活動事例を紹介し、8期生に地域で「これならできそうだ」といった行動のヒントを得る機会とし「夢プラン」作成の具体例を示す。
2. 区内に在る施設の役割を紹介し「地域資源」を知り、有効に生かす学びとする。
3. ナビゲーターの人柄を知ることによって「夢プラン」作成に向けて相談しやすいつながりの場とする。

●内容

- ◇活動団体の参加した動機と長く続けている理由を紹介。活動には出会いがある。その出会いを大切にしてきたことで多くの仲間ができた。
- ◇活動での偶然の「出会い」、「繋がり」を大切にしてきた。培った資源を地域活動に生かしてきた。その中で自身の戦争中の家族史をまとめ自費出版を行うことができた。継続には「楽しいこと」「面白いこと」「好きなこと」がポイント。地域活動に踏み出す心得を示した。
- ◇知り合いのいない地域でのつながりの始まりは自治会活動であったと紹介。みどり一むが運営委員会方式でスタートしたいきさつやNPO法人を立ち上げ長く続けているパソコン教室の活動を紹介。幅広い地域活動に触れた。
- ◇自身のセカンドキャリアの年齢別の動きを紹介。リタイア前から第二の人生を視野に入れ、仕事の延長上にある得意分野を開拓した。「健康・福祉」活動に携わるグループに飛び込んだことによって、現在の自分がある。
- ◇自身の活動自己紹介のあと、4講、5講の「夢プラン」作成に触れた。スクールで作る「夢プラン」は「実現すると誰かが喜ぶプラン」であり、「楽しく、無理なく、継続できる計画」を考えようと8期生へ示した。



8期生に市民（地域）活動の出会いと継続の力を語るナビゲーターのみなさん



8期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」、「不安に思っていること」また、質問などをご記入ください。

- 「ソフトランディング」という言葉が印象に残りました。ゆっくりと続ける。続けることができるためには、一人ではなく複数で行うこと。そして、楽しむことがとても重要だということがわかりました。（夢プランの）方向性がぼんやりと見えたような気がしました。
- 達人のみなさまの生き生きとした活動の様子、「好き」を現像力にが大切だと思いました。みなさまがパソコンを使いこなしていて素晴らしいと思いました。もう少し若い人目線、女性目線のお話も聞けるとありがたいです。
- 「地域の資源を知ろう」については時間的な制限もあり十分に理解することはできませんでしたが、近くの施設を訪問して体験したいと思います。
- 様々な地域活動の内容を聞いて、気になる！楽しそう！と思うことが多かったです。現役で仕事をしながら（地域活動を）と考えるとやはり難しいのかなとも思ってしまいました。
- 今回、様々なナビゲーターのみなさんのお話を伺ったことで「楽しく」活動を行っていくことが大事なのだと感じました。様々な人それぞれの市民活動があるとともに、そのどれも「楽しく」活動することと人と一緒につながりながら活動することが共通していると印象に残りました。
- 地域ケアプラザなど今後、ご意見をいただきに行こうと思います。



コメント欄（担当ナビゲーター：金子）

- 今年度の第2講は初めて5人のナビゲーターが活動のきっかけやそれぞれの得意分野の話をした。受講生との距離を縮められたことは今後につながる成果を生んだと思う。
- 受講生の年齢幅があるため進行がうまくいくか不安があったが、問題なく終了することが出来た。各人が年齢差を意識しない自然な発言が質問のしやすい雰囲気を作り出し、市民活動として大切なフラットな関係を伝える場となった。
- コロナの影響で8期生の3人がZoom受講となったが、Zoomを取り入れたことが生かされたと感じている。ただ、受講生同士が話し合う時間が持てなかったのは、残念。「対話」でのつながりを大事にしていきたい。
- 区内の各施設紹介は話だけでは分かり難いので、希望者を募って実際に施設見学を実施してほしいと思う。
- 8期生の「眼」が輝いているように見えた。第2講で得た知識を今後の「夢プラン」作成に生かしてくれることに期待している。

第3講「活動団体の話を聞こう」・「自分の資源に気づこう」

講師及び担当：山路講師、岡部（ナビゲーター）、後藤、森（サブナビゲーター）

日時：令和4年8月27日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）
参加者：8期生、講師、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、サブナビゲーター、事務局
合計：27人（Zoom 配信あり）

●学習目標

1. 市民活動、地域活動の経験豊かな先輩から「活動のポイントや苦労・やりがい・継続する力」について聞く。
2. 「自分の資源」に気づくことで、夢プランにつなげる。
3. 8期生の「自分の資源に気づこう」の発表を通じてコミュニケーションを図る時間とする。

●内容

1. NPO 法人霧が丘ぶらっとほ一むの成り立ちと「まち普請」を聞く。
 - ・霧が丘で活動していた3つの団体が「まちとも霧が丘」として令和3年度ヨコハマ市民まち普請事業に応募し採択。その後、NPO 団体を立ち上げ、現在居場としてのコミュニティカフェを整備中。
 - ・「まち普請」への挑戦は、突然だった。しかし、霧が丘で活動する団体による2年以上に渡る情報共有会が土台になったと説明。
 - ・霧が丘の街の特徴は、子育て世代のインド人の増加がある。（霧が丘だけで約800人）ニーズを知るアンケート調査の結果から、シニア、子育て、外国人の願いは、「地域の人を繋げ小さな困ったことを解決できる地域コミュニティカフェ」だった。「まち普請」には「多世代・多文化交流の新拠点づくり」をテーマにコンテストを通過。カフェの名称は子どもたちの意見を取り入れたという。
 - ・霧が丘の新しい「まちづくり」に情熱を持って取り組む「ぶらっとほ一む」に大いに期待する3講となった。 ▲拠点のオープン・2023年1月予定



NPO 法人霧が丘ぶらっとほ一むの活動発表



山路講師の進行で団体と8期生とのディスカッション

2. 「自分の資源に気づこう」

- 自分の棚卸：(ア) 自分の好きなこと・趣味
(イ) 得意なこと・特技を8期生全員が発表した。
3分間の発表時間であったがじっくりと話を聞く場となり、コミュニケーションを図る効果を生んだ。



8期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆今回の講座の中で「印象に残ったこと」「今後生かしていきたいこと」をご記入ください。

- 霧が丘ぷらっとほーむさんのお話は、私の今後やっていきたいことへのヒントがたくさんありました。ニーズを拾っていくことや地域でそれぞれ活躍している方々との横のつながりを大切にしていくことの大切さを実感しました
- 発表を聞いて、カフェを作っていることを知り「すごいな！」とあこがれてしまいました。
- 「資源に気づこう」ワークショップで8期生の個性が見られてとても楽しかったです。9人の仲間ができるのは心強いです。
- 今回はさまざまな方のパワーを感じる講座でした。霧が丘ぷらっとほーむのみなさんがまち普請を通じてプロジェクトを作り上げていく様子であったり、8期生のみなさんの発表であったり、それぞれの「熱量」がとても印象に残りました。
- 自分の好きなこと、得意なことを聞かれるのは大人になってからは、ほとんどないのではじめはなかなか思いつかず焦りました。でも自分自身を知ってみんなに伝える良い機会になりました。
- 「自分の資源に気づこう」は自分を振り返る機会になったし、他のみなさんのことを知る機会にもなり、楽しかったです。個性のある方々とつながれていることをうれしく思いました。

コメント欄（担当ナビゲーター：岡部）

- ①第3講は、全員の緊張感もほぐれ、和やかな雰囲気講座ができた。
- ②行政の手の届かないところを市民活動「霧が丘のぷらっとほーむ」が補う構想であり、霧が丘の地域のつながり、まちづくりになるよう期待したい。
- ③ぷらっとほーむの活動が情熱を失うことなく今後も頑張ってもらいたい。
- ④「自分の資源に気づこう」の発表が8期生のコミュニケーションづくりに役立つことを期待する。
- ⑤先輩の発表を聞いて、仲間づくりの大切さを学んだことは良かったと思う。



第4講 夢プラン作成ワークショップ①

講師及び担当：竹迫講師、神田、田中、金子（ナビゲーター）、野場（サブナビゲーター）

日時：令和4年9月10日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）
参加者：8期生、講師、ナビゲーター、緑区社会福祉協議会、サブナビゲーター、事務局
合計：22人（Zoom 配信あり）

●学習目標

1. 受講生それぞれが何をやりたいと思っているのかにじっくり耳を傾け、それぞれの「夢プラン」作成にむけた情報交換を行う。
2. 自分がやりたいことを他者にもわかりやすく伝えるための設計書（夢プラン）の作り方、表現の仕方を学ぶ。

●内容

1. オープニングタイム
 - ・本日の主旨説明、講師の自己紹介、受講生の「自分のキャッチフレーズ」の発表がありました。
2. 夢プランにむけての芽だし&企画づくり（「私のやりたいこと」、「やりたいことが実現すれば、どんな人たちにどんな未来が期待できるか？」）
 - ・2人一組になって、上のふたつのお題についておしゃべりしました。
 - ・紙に「やりたいこと」、「未来のビジョン」を書き、ひとり2分発表しました。
 - ・発表内容に対して、受講生、ナビゲーターが感想やアドバイス等のコメントを付箋に書き、貼り付けました。
 - ・骨太シートの「ビジョン」「目的」「対象」「到達目標」「連携先」を考えました。
3. クロージングタイム
 - ・竹迫さんから本日のまとめのコメントがありました。
 - ・次回までに、夢プランを実現するために、どんな社会資源が周りにあるか、必要か調べてくることが宿題となりました。



第4講は「夢プラン」の芽出し。思いを語る8期生。「居場所づくり」「多世代交流カフェ」「若者支援」「高齢者が健康でハッピーになる街」「歴史を語り継ぐ街」「外国人支援」8人8様の素敵なプランが生まれた。



8期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆今回の講座の中で「印象に残ったこと」「今後生かしていきたいこと」をご記入ください。

- いろいろな人のアドバイスをいただいたので「夢プラン」をゆっくり考えてみたいと思います。
- ナビゲーターの方のアドバイスがとても参考になって、自分の考えを深めることができました。また、他のメンバーの発表からもインスピレーションをいただきました。
- 8期生のいろんな考え、希望を聞くことは参考になりました。「夢プラン」の作成は形にすることで、ぼんやりですが、段々と見えてきたようです。
- グループでもたくさん話せて楽しかったです。
- 8期生のみんなのしっかりとしたプランがうらやましいです。私自身どう考えていくか、再考します。
- 受講生の方々がそれぞれの「やりたいこと」を持っていることが印象に残りました。すでに具体的な方もそうでない方もこれからどのように夢プランを作成していくのか楽しみです。
- やりたいこと、考えていることがたくさんありすぎて1つにまとめるのが難しいですが、ゆくゆく叶えられるように「夢プラン骨太シート」をまとめたいと思います。
- みんなが思い描く夢プランはつながっていて、とても楽しく「ひと・まち」が進んでいくのだろうなと思えてうれしくなりました。

コメント欄（担当ナビゲーター：神田）

- 8期生は最初から受講者間やスタッフとの交流が活発でしたが、「自分のキャッチフレーズ」発表では、皆さん素敵なキャッチフレーズを考えて来てくれて、会場の雰囲気ますます明るく、和やかになりました。
- 8期生各自が夢プランの「ビジョン」と「目的」を紙に整理し、発表したり、発表を聞いて、感想やアドバイスを付箋に書いたりするワークショップを行った後、骨太シートの1枚目を作成しました。
- 8期生の発表では、発表を聞いた8期生からの感想もあり、それぞれが率直なコメントを伝えました。発表を聞いた人がどのように「夢プラン」を受け取ったかが分かり、今後の参考となる時間を持つことができました。
- 8期生やナビ、サブナビ、区社協が感想やアドバイスを付箋に書き、模造紙に貼り付けましたが、どの発表にも多くの付箋がありました。他人の発表に対しても興味を持ち、一緒に考える姿勢がすばらしいと思いました。



第5講 夢プラン作成ワークショップ②

講師及び担当：竹迫講師、神田、田中、(ナビゲーター)、野場 (サブナビゲーター)

日 時：令和4年10月8日(土) 場所：緑区市民活動支援センター(みどり一む)
参加者：8期生、講師、ナビゲーター、サブナビゲーター、事務局
合計：20人 (Zoom 配信あり)

●学習目標

1. それぞれの「夢プラン」作成に向けた作業と情報交換を行う。自分のやってみたことをわかりやすく伝えるプランが描けているか確認する。
2. 他者のプランにアドバイスを積極的に出し、みんなで8期生の夢プランを磨く。

●内容

1. オープニングタイム
 - ・竹迫講師より今日の予定の説明後、受講生の「自分の夢プランにキャッチフレーズをつけるなら」の発表を行った。
 2. 「夢プラン」に向けての情報交換と練り直し
 - ・8期生は2人1組となり、そこにナビゲーターとサブナビゲーターが入り、一人10分の発表と感想を出し合った。その後、1時間かけて、現段階での夢プランを仕上げた。
 - ・各グループに講師やナビとサブナビから意見やアドバイスを書いて渡した。
 - ・夢プランを模造紙に張り、ビジョン、目的、対象、連携先を書き込んだ。
 3. 夢プラン展覧会&お知恵拝借タイム
 - ・出来上がった夢プランを1分間で発表。講師の講評を得て、意見を付箋紙に書いて「お知恵を拝借」とした。Zoomでも4人の先輩(修了生)からチャットで意見をもらった。
- ※「夢プラン相談会」の実施 みどり一むと個別で実施し、5人の参加があった。



仲間からたくさんのアドバイスを付箋でもらった。



「地域の架け橋になりたい」思いを伝えた。



8期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆今回の講座の中で「印象に残ったこと」「今後生かしていきたいこと」をご記入ください。

- いろいろな人のアドバイスをいただいたので「夢プラン」をゆっくり考えてみたいと思います。
- ナビゲーターの方のアドバイスがとても参考になって、自分の考えを深めることができました。また、他のメンバーの発表からもインスピレーションをいただきました。
- 8期生のいろんな考え、希望を聞くことは参考になりました。「夢プラン」の作成は形にすることで、ぼんやりですが段々と見えてきたようです。
- グループでもたくさん話せて楽しかったです。
- 8期生のみんなのしっかりとしたプランがうらやましいです。私自身どう考えていくか、再考します。
- 受講生の方々がそれぞれの「やりたいこと」を持っていることが印象に残りました。すでに具体的な方もそうでない方もこれからどのように夢プランを作成していくのか楽しみです。
- やりたいこと、考えていることがたくさんありすぎて1つにまとめるのが難しいですが、ゆくゆく叶えられるように「夢プラン骨太シート」をまとめたいと思います。
- みんなが思い描く夢プランはつながっていて、とても楽しく「ひと・まち」が進んでいくのだろうなと思えてうれしくなりました。



コメント欄（担当ナビゲーター：田中）

- 5講は「夢プラン」づくりの日で、一人一人の特徴あるプランシートが誕生し、発表も楽しく進んだ。8期生は「明るく」「雄弁」であった。
- 「夢プラン」には、自分の思いや資源の整理が詰まっていたが、あと一步の詰めが必要な段階。意見、アドバイスの付箋もたくさんつき参考になったと思う。
- グループごとにナビゲーターとサブナビゲーターが入り、8期生と意見交換したり、相談に乗ったりした。講師の指導力が素晴らしく、時間を忘れる講となった。
- 受講者は自分の夢の本質に立ち戻り、進め方を変えたり、筋道の表現を変えたり、ストーリーができていたが補強した人、それぞれの「夢プラン」の充実を図った。
- リモート参加は4名で、「8期生は明るい雰囲気ですね。」との感想をもらった。
- 夢プラン相談会は2日間と希望日に行い、5人の受講者が参加し不安なところ、図の書き方のアドバイスを受けた。
- （Zoom参加の）修了生から講演会を行うという告知とともに参加を呼びかける場面もあり、活動を伝えたことは8期生への励みとなったと思う。

令和4年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第6講 修了式、夢プラン発表会

講師及び担当：名和田学長、山路講師、岡部、藤村、森、野場

日時：令和4年11月12日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）
参加者：8期生（7）、名和田学長、山路講師、緑区社会福祉協議会、ナビゲーター（5）、
サブナビゲーター（3）、緑区長、事務局（3）合計:22人
Zoom参加：9名

●修了式

- ・8期生は、出席率が高く「夢プラン」の提出もあり8名全員が修了したことは特筆すべきかと思う。
- ・ハイブリット型（Zoom＋リアル）の開催も定着してきた。
- ・例年通り、修了証書を名和田学長より授与された。修了証書の文面は個人の特徴を反映したオーダーメイドとなっている。
- ・続いて修了生代表の答辞はとても印象深かった。自身の生い立ちからスクール参加のきっかけ、参加してやりたいことが明確になったことが伝えられ、その前向きな姿勢には感心した。聞くものすべての心に響くものとなった。
- ・続いて学長挨拶、区長挨拶の後に夢プラン発表となった。

●夢プラン発表会

- ・1名が欠席したため、7名の「夢プラン」の発表があった。
- ・Zoomで参加頂いた竹迫講師から発表全体へのコメントを頂いた
- ・実技（ヨガ）での発表は予想外であったが、このようなプレゼンテーションの方法がある事はとても勉強になり、8期生の個性が出たと感じた。
- ・8期生のプレゼンテーションは全員の完成度が高かった。
- ・8期生の「夢プラン」は出入り自由な感じで「マイペース」、「ゆったり」とした活動を望んでいると思った。
- ・地域活動は楽しみながらできることを大切にしたいとう8期生の姿勢が感じ取れる発表だった。

全員の発表後に、名和田学長から個人別の発表内容に対して講評を頂き、山路講師からは全体に対する講評を頂いた。それぞれの立場からのコメントは8期生にとって深い学びとなったはずである。

8期生のアンケートより（抜粋）



- いろいろと支えていただきました。
- 心配と緊張で参加したスクールだったが今後のビジョンを描くことができました。
- 体調等で参加出来なかった時、Zoom参加も可能にしてもらい気持ち的に助かりました。
- 多くの方々の支援をもらい感謝している。
- 多世代の受講者の思いや考えを聞いたことやナビゲーターのみなさんの様々な意見を聞きました。
- 「好きなことをゆっくり続ける」ということを学ぶことができた。
- 自分という資源に気づき何がしたいのかに気づく、理解を深める機会となった。
- 貴重な機会をありがとうございました。
- きめ細かな指導、サポートしていただきありがとうございました。
- 期待を遥かに超えての出会いと気づきがありました。心強い仲間ができた事は財産です。スタッフのみなさまお疲れ様でした。緑区に住んでよかったです。



修了を記念して



夢プラン発表会



8期生代表答辞



会場と修了生をつなぐ

コメント欄（担当ナビゲーター：藤村）

- 地域間と年代間の広さは例年と比べ幅広く、各個人の考え方など多種多様でよい刺激になった。
- 「8期生の広場」で全員の感想スピーチは好感もてた。発表後の「ほっと！」の安堵感と無事にやり遂げた達成感、満足感が伝わってきて笑顔が印象的だった。
- 「夢プラン」の発表は個々のアイデアが活かされていた。サプライズ的にハーブの実演のBGMを聞きながらヨガの実演があってもよかったと思う。
- 全体的に、いつでも気軽に寄れる「居場所」があれば活動開始出来るのではと思った。少し古いですが、昭和レトロな「お茶の間」と「縁台」のイメージが浮かぶ。
- コロナ禍での運営に違和感も少なく定着しつつありますが、個人的にはリアルの方が共感度は高いと感じている。